

## 6/9-15#1:ローマ5-8章における命の路線と死の路線

I.ローマ5-8章は聖書の核心と呼ぶことができ、聖書の主題全体を具体的に、また詳細に示しています:

ローマ5:17 一人の違犯によって、死が一人を通して王として支配したなら、あふれるばかりの恵みとあふれるばかりの義の賜物を受ける者たちは、さらにいっそう一人の方、イエス・キリストを通して、命の中で王として支配します。Aこれら二つのかぎとなる言葉(「命」と「死」)は、ローマ5-8章において繰り返し述べられています。命と死は、5-8章で、命の路線と死の路線という二つの対照的な路線を形成しています。これは、人が神とサタンとの間の、命と死との間の、三角の状況にあることを示しています。B命の木と知識の木(死の木)は、二つの路線をもたらします。それは、命の路線と死の路線であり、聖書全体を貫いており、啓示録において終わります。命は、命の木をもって始まり、命の水の都である新エルサレムをもって終わり、命の木と命の光と命の栄光を伴っています。死は、知識の木をもって始まり、火の池をもって終わります。創2:9 エホバ・神は...見て喜ばしく、食べるのに良い、すべての木を生えさせ、さらに園の中央に命の木と、善悪知識の木を生えさせられた。C命の木を食べること、キリストを私たちの命の供給として享受することは、召会生活の主要な事柄であるべきです。召会生活の内容は、キリストの享受にかかっています。私たちが彼を享受すればするほど、その内容はますます豊富になります。Dしかし、キリストを享受するには、私たちが初めの愛をもって彼を愛することが必要となります。もし私たちが主に対する初めの愛を離れるなら、キリストに対する享受を失い、イエスの証しを失います。その結果、燭台は私たちから除き去られます。啓2:4 しかし、私には、あなたを責めるべき事が一つある。あなたは初めの愛を離れてしまった。5 そこで、あなたはどこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めのわざを行ないなさい。しかし、そうしないなら、私はあなたの所へ行く。そして、もしあなたが悔い改めないなら、あなたの燭台をその所から除き去る。7 勝利を得る者には、神のパラダイスにある命の木から食べさせよう。E初めの愛を回復することは、すべての事で主イエスを第一と考えることです。私たちがキリストを自分の生活の中ですべてとするなら、これは、私たちが初めの愛を失うことに勝利したことを意味します。Fエペソに在る召会への主の語りかけは、英語の「L」の文字で始まる四つの重要な言葉で要約することができます。それは「愛:love」、「命:life」、「光:light」、「燭台:lampstand」です。私たちがあらゆる面において、またあらゆる事において、主

イエスに首位を与えて、初めの愛を回復しなければなりません。そうすれば、私たちは彼を命の木として享受します。そして、この命は直ちに命の光となります。そうすれば、私たちは日常生活の中で、また燭台として団体的に輝きます。G悪しき者どもの邪悪な状態は、彼らが主に来て主を食べ享受することをしないことです。彼らは多くの事を行ないませんが、来て主と接触することをせず、彼を取らず、彼を受けず、彼を味わわず、彼を享受しません。神の目に、これほど邪悪なことはありません。II.今日、信者は、小規模なエデンの園であり、霊の中に命の木としての神を持っており、肉の中に知識の木としてのサタンを持っており、思いが中間にあります。私たちは、霊にいるか肉にいるかのどちらかです。私たちがいるべき第三の場所はありません。こういうわけで、私たちが思いを霊に付けなければならないのです:ローマ8:6 肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です。A人の体は本来、純粋なものでしたが、人の墮落を通して、サタンが彼自身を人の中へと注入し、人の体は肉となりました。1 私たちの体は「罪の体」また「この死の体」です。罪の体は、神に対して罪を犯すことではとても活発で、力に満ちています。しかし、この死の体は、神を喜ばせるために活動することにおいては弱く、無能です。6:6 私たちは次のことを知っています。私たちの古い人が彼と共に十字架につけられたのは、罪の体が無効にされて、私たちがもはや、罪に奴隷として仕えることがないためです。3肉は、罪と死とサタンとの「集会所」また複合体です。肉には望みはなく、決して改良されることはできません。B神のエコノミーのために、神は彼の知恵と主権の中で、私たちの罪深く醜い肉を用いて、私たちを強いて私たちの霊に戻させます。それは私たちが、私たちの中での神の増し加わりによって、神の建造のためにさらに多くその霊を獲得するためです。1法理的に言えば、サタンと私たちの肉は十字架上で一度で永遠に罪定めされましたが、神は肉が私たちにとどまることを許し、肉が私たちを助け、私たちを強いて、霊の中のキリストに戻らせ、私たちがもはや肉を頼みとしないようにします。ピリピ3:3 なぜなら、私たちこそ割礼の者であり、神の霊によって仕え、キリスト・イエスの中で誇り、肉を頼みとしていないからです。3 私たちの目標は、聖別や霊性や勝利であるかもしれませんが、神の目標は、ご自身を私たちの中へと造り込んで、私たちを栄光なものにすることです。しばしば私たちは困難な状況にあるとき、さらに主を開き、さらに進んで彼に立ち返り、彼にご自身を私たちの中へと造り込んでいただくようになります。4 私たちが彼を追い求めるなら、

肉という罪深い複合体でさえ、主を獲得することにおいて私たちの助けとなります。私たちは頻繁に失敗するので、必死になって霊に戻ります。そうすれば、このようにして、私たちはさらに多くその霊を獲得します。**5**私たちの困難、敗北、失敗、落胆は私たちを強いて、肉には望みがないことを認識させます。肉が役立つのはただ、私たちを強いて霊の中のキリストに戻らせ、私たちを霊の中へと押し込み、必死になって霊の中へと入らせ、目を覚まして霊の中にとどまるようにさせるということだけです。**エペソ6:18** すべての祈りと願い求めによって受け取りなさい。どんな時にも霊の中で祈り、すべての聖徒のために根気と願い求めの限りを尽くし、このために目を覚ましていなさい。**6**主は、私たちが勝利を得るかどうかに注意していません。主はただ一つの事だけに注意しています。それは、私たちが思いを霊に付けることによって、その霊としてのキリストを獲得することです。

**III. 私たちは、ローマ5章ではアダムの中におり、6章ではキリストの中におり、7章では肉の中におり、8章では霊の中にいます。5章のアダムは7章の肉の中で経験され、6章のキリストは8章の霊の中で経験されます。**

**A** 私たち、キリストにある信者は、キリストの死を通してアダムから出て、キリストの復活を通してキリストの中へと、事実においても地位においても移されています。**2**キリストの中で、私たちは以下の賜物を受けました。すなわち、義と、命と、恵みの中で命に至る義認を受けました。この命の中で、私たちは恵みと共に王として支配し、万物を治めます。**ローマ5:18** こういうわけで、一度の違犯を通してすべての人に罪定めが及んだように、一度の義なる行為を通して、すべての人に命の義認がもたらされたのです。**21** それは、罪が死の中で王として支配したように、恵みもまた義を通して王として支配し、私たちの主イエス・キリストを通して永遠の命に至るためです。**B** 私たち、キリストにある信者は、実行上の経験的な移行を持ちます。私たちはキリストと共に十字架につけられることを通して、肉(実行上の経験的なアダム)から移し出されて、命の霊の法則としてのキリストとの有機的な結合を通して、その霊(実行上の経験的なキリスト)の中へと移し入れられます。**8:2** なぜなら、命の霊の法則が、キリスト・イエスの中で、罪と死の法則から、私を解放したからです。**16** その霊ご自身、私たちの霊と共に、私たちが神の子供たちであることを、証してくださいませ。

**C**キリストご自身は神の命、永遠の命です。彼が来たのは、私たちが命を得、しかも豊かに得るためです。彼が命を解き放つ死を遂げて、命を分与する復活の中へと入り、命を与える霊と成って、命の霊

の法則として、私たちの霊、思い、死ぬべき体に命を与えるのは、私たちが命によって飲み尽くされて、他の人に命を供給する者となるためです。**IV. 私たちは命の路線にとどまるために、命の木としてのキリストを享受する道を取らなければなりません。**

**証** 私は、**IV.A.5.**「私たちの困難、敗北、失敗、落胆は私たちを強いて、肉には望みがないことを認識させます。肉が役立つのはただ、私たちを強いて霊の中のキリストに戻らせ、私たちを霊の中へと押し込み、必死になって霊の中へと入らせ、目を覚まして霊の中にとどまるようにさせるということだけです」について証します。

私は特別集会や通常の集会で、頻繁に主に照らされ、その都度、今後は主の御心に従って、もっと主を愛し、自分の生活を変えようと決心しました。しかし、しばらくするといつも何も実行せず、古い生活のままでした。最初は、自分自身に「お前は何をやっているのか?」と叱責しましたが、何の役にも立ちませんでした。これらの具体的なことについてはあまり覚えていませんが、「肉は何の役にも立たない」との感覚は明瞭に覚えています。その後、聖書のライフスタディの助けにより、「肉は罪、死、サタンの集会所であり、神のエコノミーに徹底的に反対しており、神のエコノミーの遂行について全く無力である」ことを知るようになりました。私は次のように祈りました、「主イエスよ、私の肉は改善不可能です。肉の存在意義は、私が自分自身に完全に失望して、私を強いて、霊に向かわせることだけです。私はあなたの召しに応答し、御心を直ぐに実行したいのですが、私にはそれを遂行する力がありません。私はちよつとでも油断して、肉に頼ると失敗してしまいます。私は思いを霊に付け、あなたにだけ依存します。あなたを愛することにおいても、私は自分に頼ることはできません。あなたの愛に新鮮に触れなければ、私は弱いので、あなたを愛することができません。以前、私は自分に頼り、あなたを愛そうとしていました。そして、失敗すると大いに失望しました。今、私は失望すらしません。元々、私の肉は、神のエコノミーについて何の役にも立たないのです。私は必死になって、あなただけを見つめます。あなたご自身に触れ続けさせてください。そうすれば、私は神聖な分与の下で、歩むことができます」。肉の度重なる失敗の故に、私はこのように祈ることができました。結局、肉は私を助けて、主だけを見つめさせました。ビジョンと献身を更新し、神の定められた道を実行する恵みを得る私の秘訣は、このような祈りの中で、必死になって、主の御言葉を用いて、主だけを見つめることです。